

## 第2章 航路診断

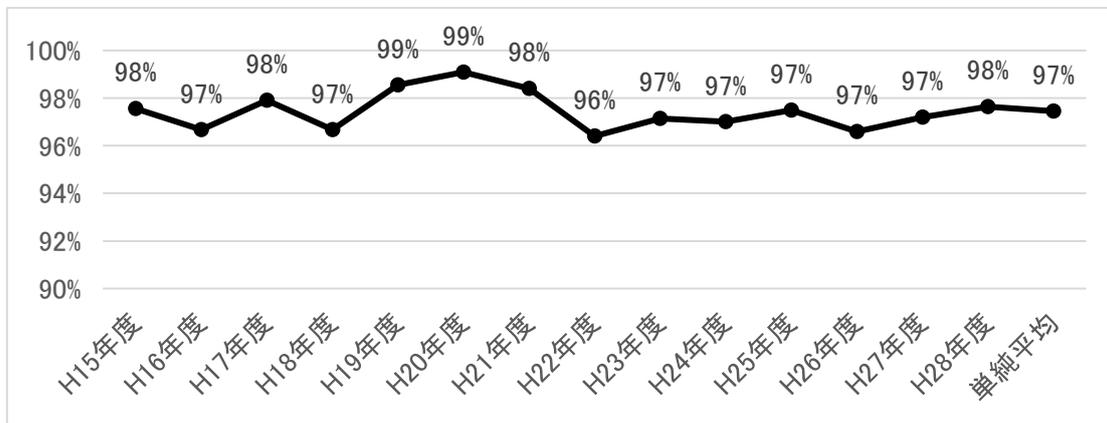
### (1) 航路利用の概況

#### ① 運航状況（就航率）

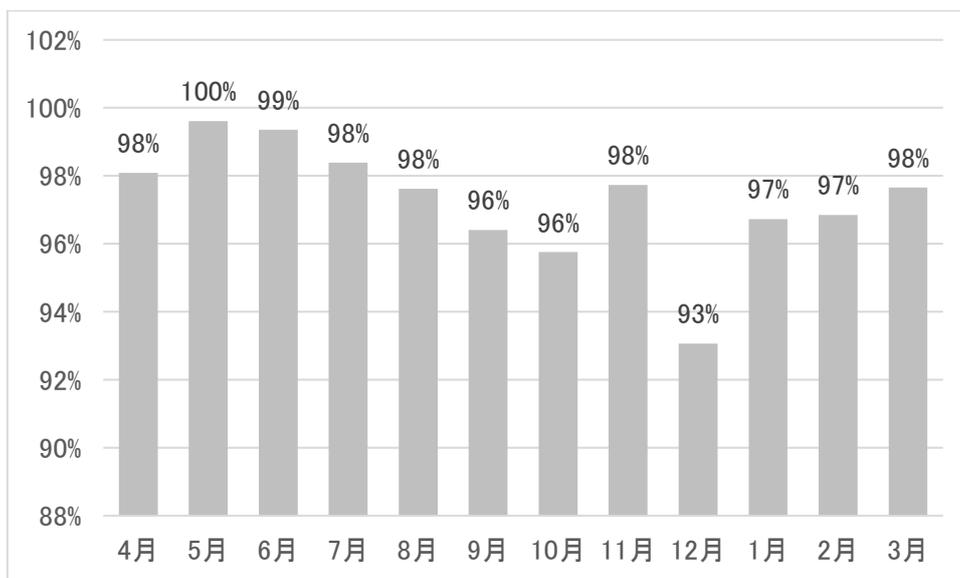
就航率は平均97%と安定的な運航。月別で見ると冬場の時化による欠航が5%前後。

- ・ 就航率は97%前後で推移しており安定的な運航が行われている。
- ・ 月別で見ると、12月をピークに、冬場特有の時化の影響により就航率は低下する。

図表 年間平均就航率（1-（欠航回数/運行回数））



図表 月別就航率 ※H15~H28年度平均



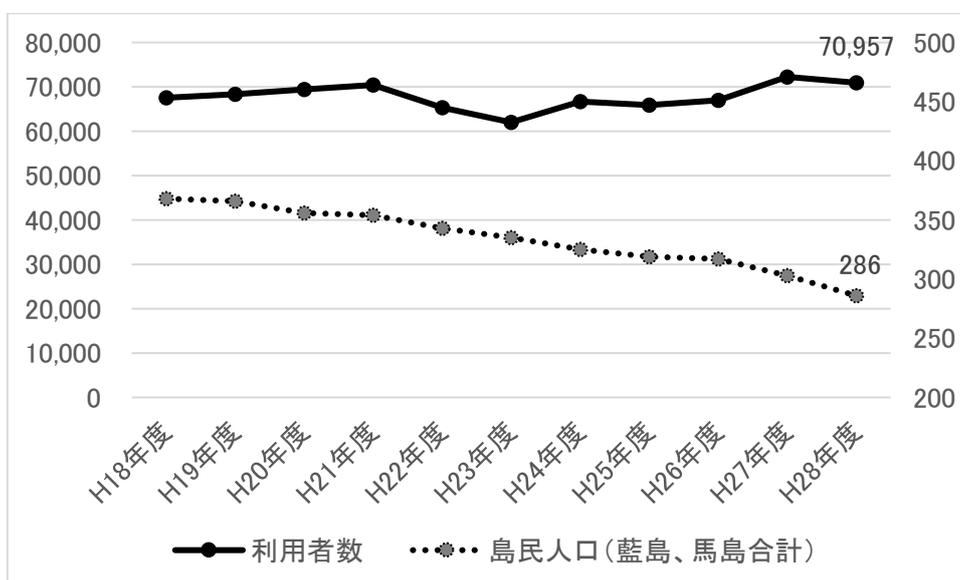
## ②利用者数

### 1) 年間利用者数

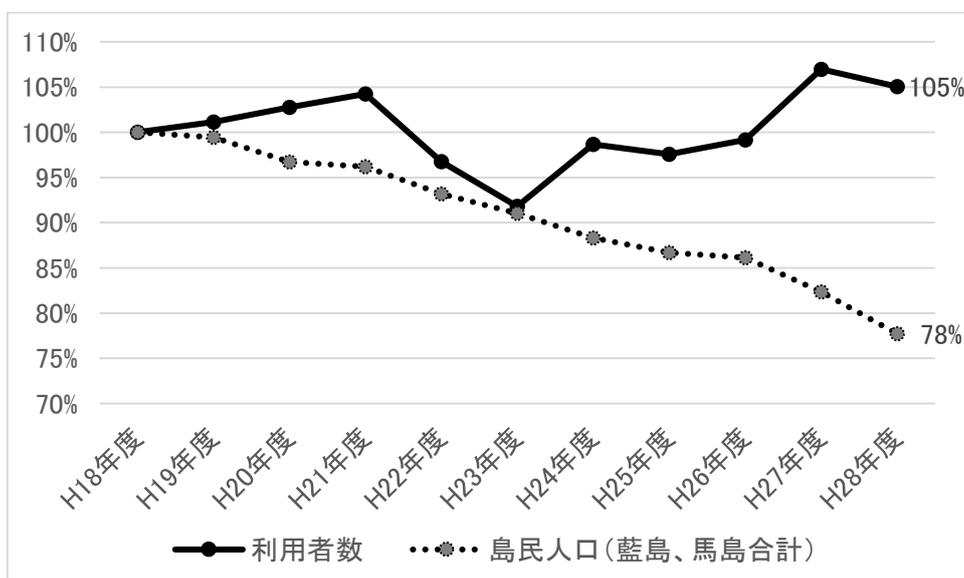
#### 利用者数は7万人前後で推移

- ・ 本航路の利用者数は、島内人口の減少が続く中で、島外利用者の増加により7万人前後を維持している。
- ・ 平成26年度から平成28年度の増加は公共事業（小学校改築）が影響していると考えられる。

図表 利用者数〔左軸〕・人口〔左軸〕（単位：人）



図表 平成18年度=100%の場合の推移

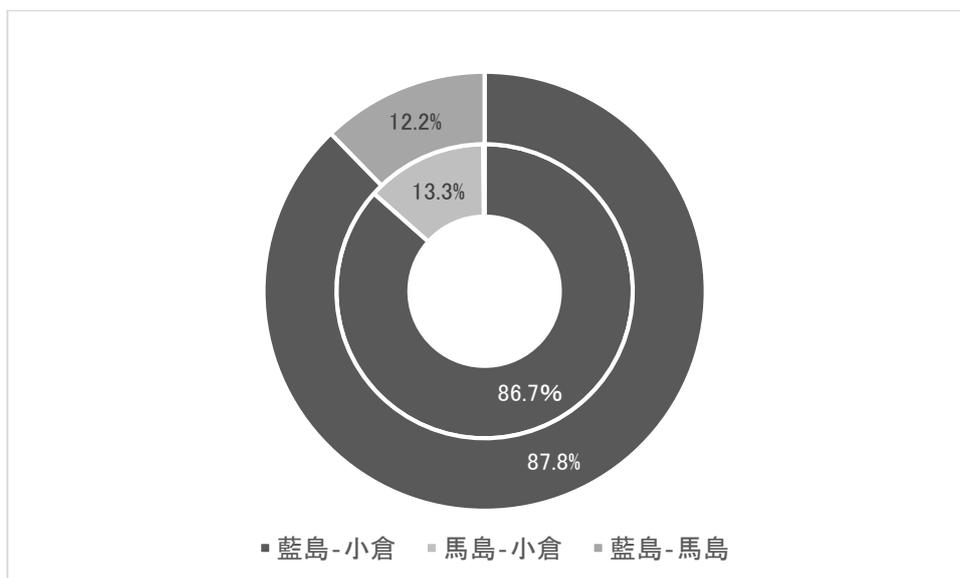


## 2) 区間別利用者数

### 利用者数割合は藍島87%、馬島13%と人口比率と同じ割合の利用者数

- ・ 区間別の利用者数は、藍島一小倉が平成 28 年度で 61,432 人と全体の 86.7%を占めている。
- ・ 利用者数の推移をみると、藍島一小倉は平成 24 年度以降、僅かに減少する年度があるものの全体的には増加傾向にある。一方、馬島一小倉は平成 22 年度以降、減少傾向にある。

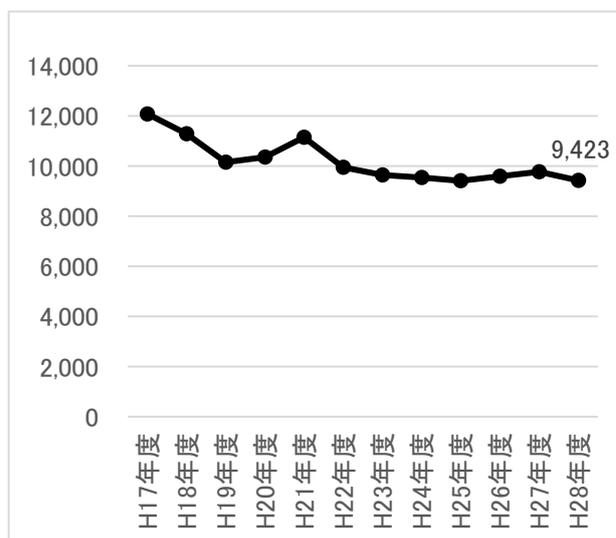
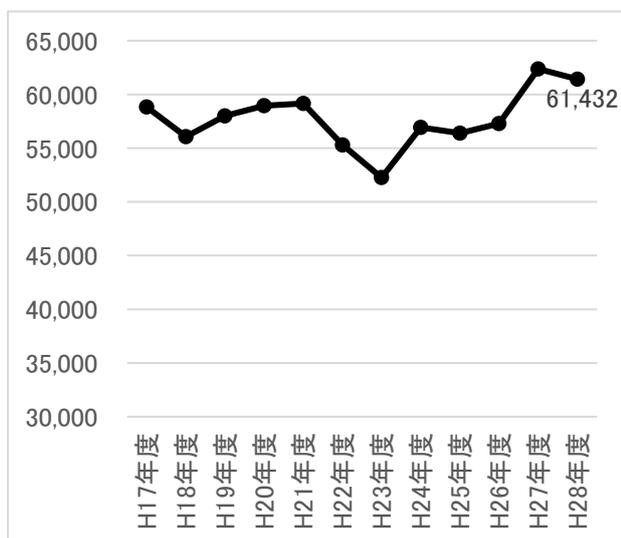
図表 区間別利用者数（内円が利用者数比率、外円は人口比率）



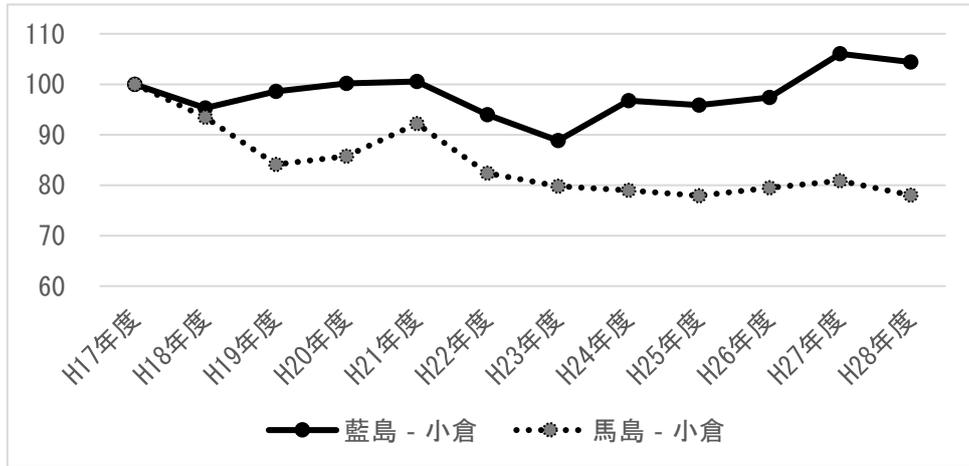
図表 区間別利用者数（単位：人）

（藍島—小倉利用者数）

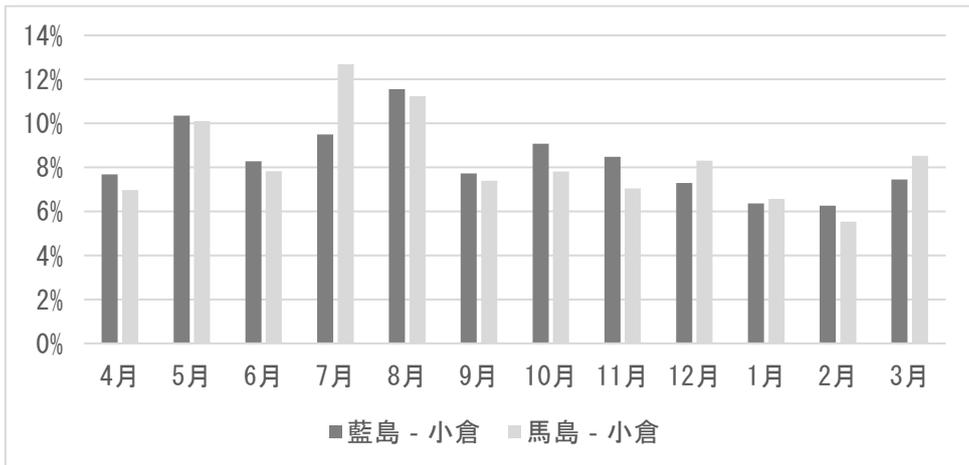
（馬島—小倉利用者数）



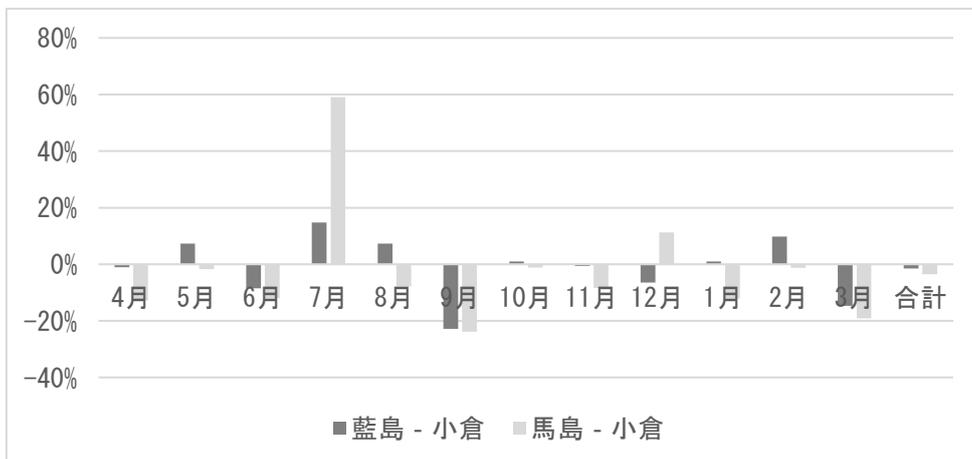
図表 平成17年度=100の場合の推移



図表 平成28年度 月別利用者数（単位：人）



図表 平成27~28年度月別利用者数増減率

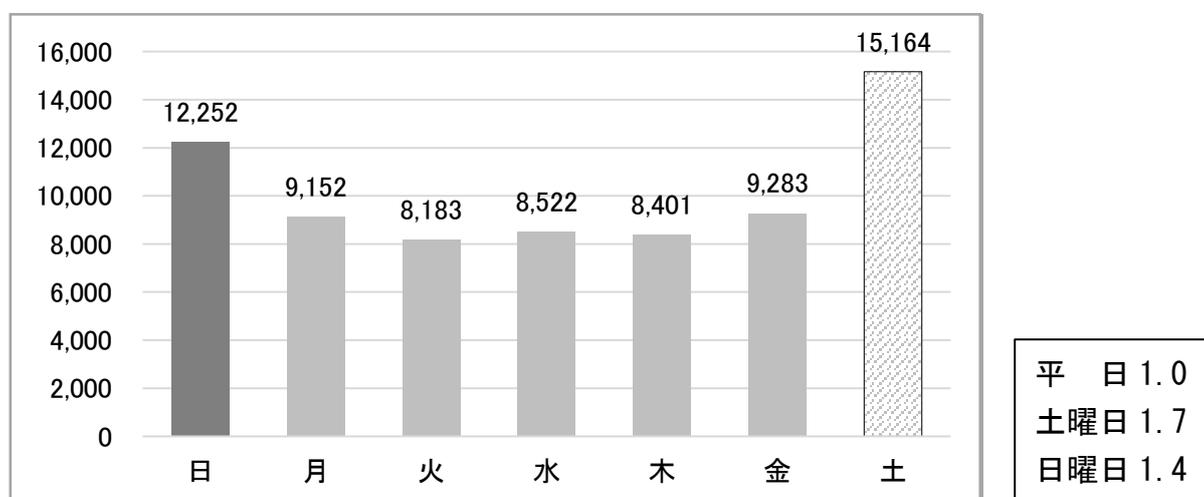


### 3) 区間別・曜日別利用者数 (平成 28 年度)

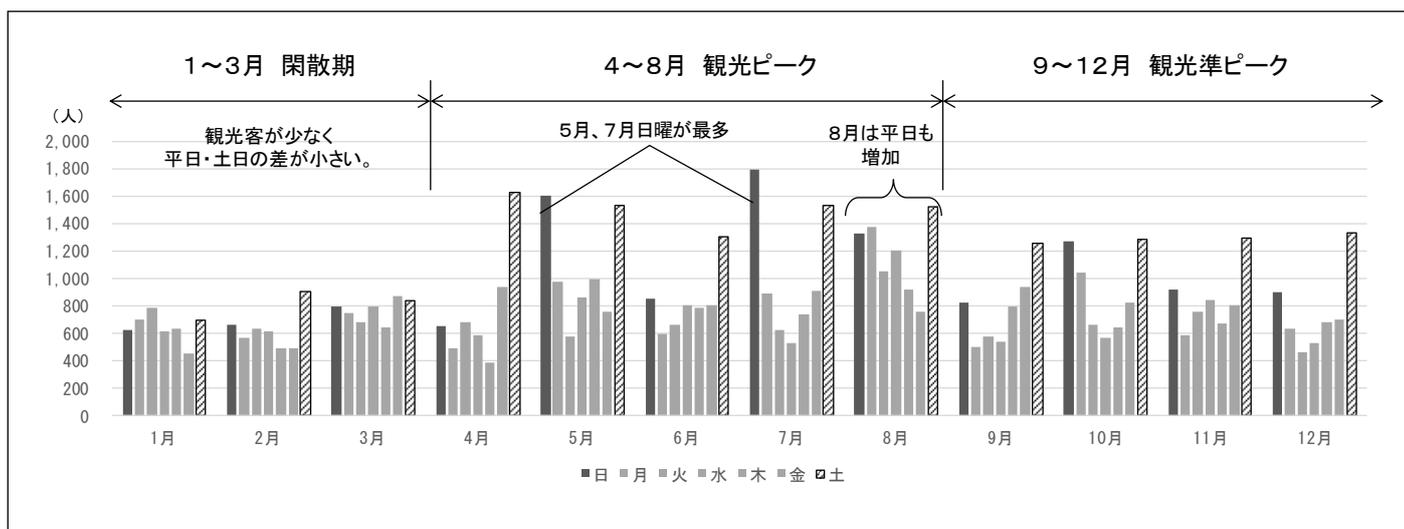
土日利用者は平日の 1.4~1.7 倍。4~8 月が観光ピーク

- ・ 曜日別利用者数をみると、全体的に土曜日、日曜日の利用者が多く、観光シーズンほどその傾向が強い。
- ・ 平日（月～金）の平均値を 1.0 とした場合、土曜日が 1.7、日曜日は 1.4 となる。

図表 曜日別利用者数 (単位：人)

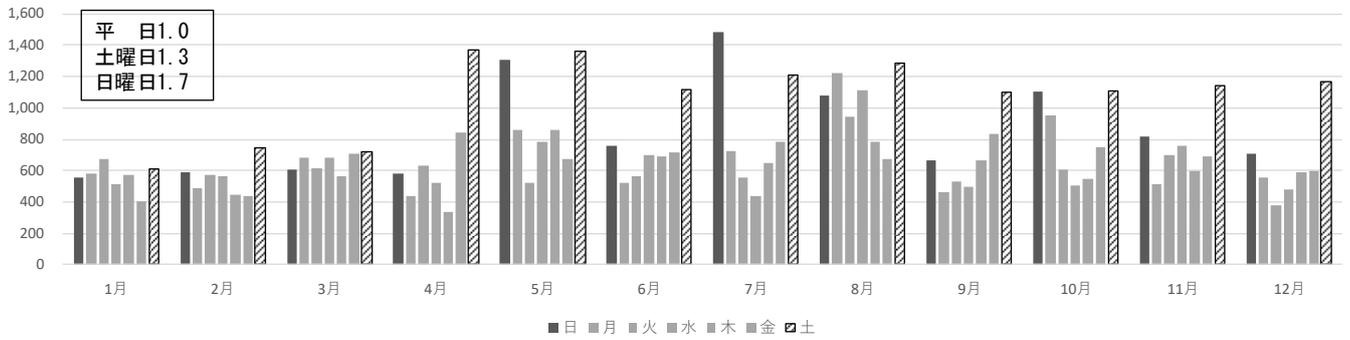


図表 月別・曜日別利用者数 (単位：人)

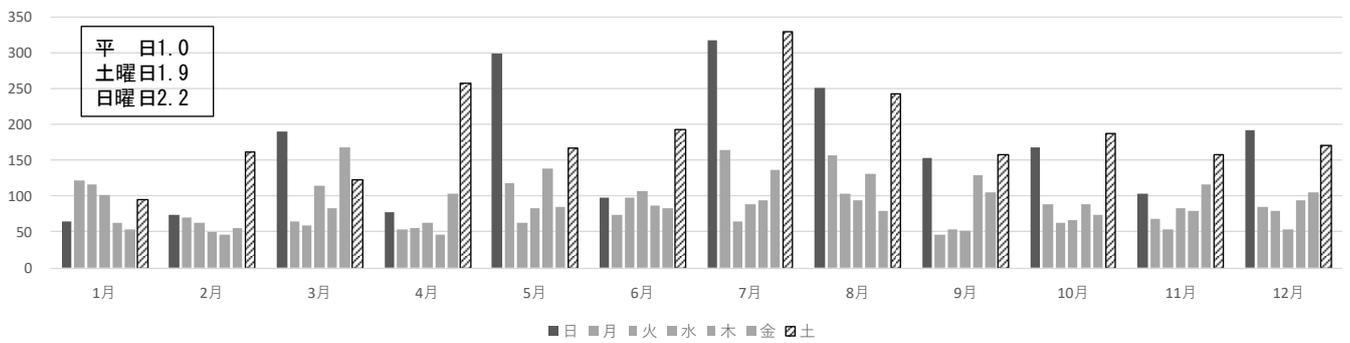


図表 区間別・月別・曜日別利用者数（人）

《藍島-小倉》



《馬島-小倉》

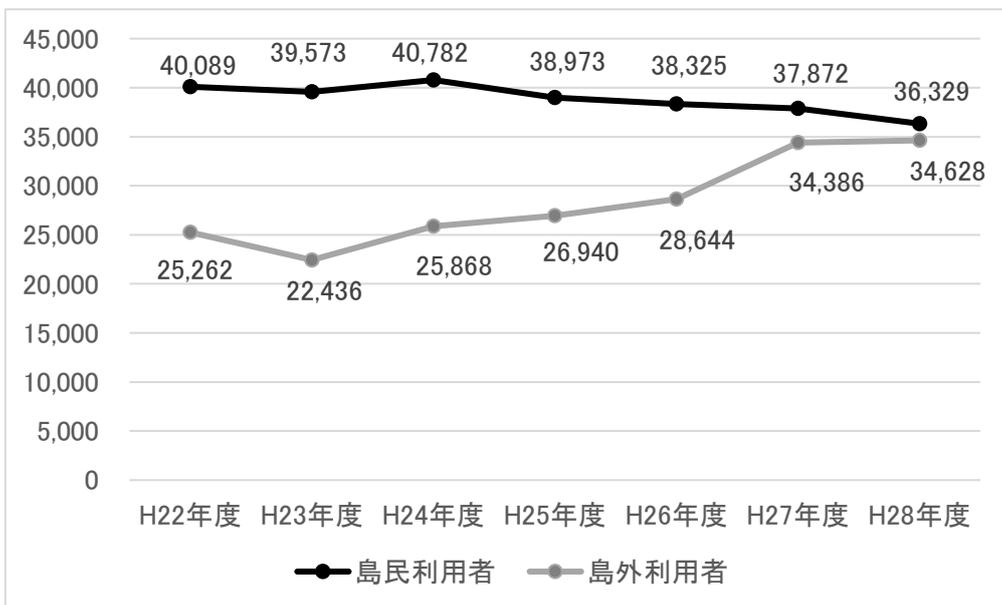


#### 4) 島民・島外別推計利用者数 (小倉発の往復乗船券購入者を「島外利用者」と仮定)

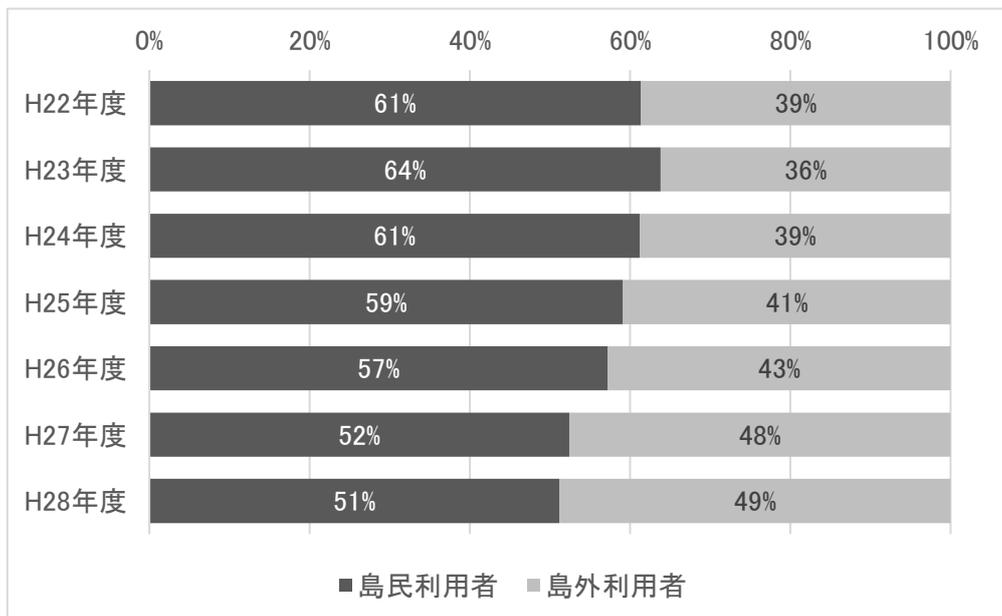
**島民:島外利用者は 51:49 と拮抗。年々島外利用者の割合が高まる傾向。**

- ・ 小倉港での往復乗船券購入者を「島外利用者」と仮定した場合、平成 28 年度では島民 51%、島外利用者 49%となる。
- ・ 島民は人口減少の影響により減少傾向にあるが、島外利用者は平成 23 年度以降増加しており、年々島外利用者の割合が高まっている。

図表 島民・島外別利用者数 (推計) (単位: 人)



図表 島民・島外別利用者数割合



## (2)航路診断

航路診断では、小倉航路が安全で快適な運航が行われているか、また、利用状況が適切かどうかの評価を、①安定性、②快適性、③利便性、④需要妥当性の4つの指標で客観的に分析する。

図表 航路診断項目

評価指標	評価の視点	分析指標
①安定性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 荒天以外の機器類による欠航など、船体の問題で必要以上に就航率が低下する要因がないか。</li> <li>・ バックアップ体制として、緊急時にも対応できる備船先が確保されているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就航率(年間、月別)</li> <li>・ 他備船先の所在</li> </ul>
②快適性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハード、ソフト両面で、利用者が快適に利用できる環境が整っているか。 (ハード)船内、待合所 (ソフト)船員・窓口の接遇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート調査 (満足度)</li> </ul>
③利便性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者が利用しやすいダイヤ設定となっているか。</li> <li>・ 路線バスや鉄道などの二次交通の接続状況が良好であるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 便別利用状況</li> <li>・ 販売券別売上状況</li> <li>・ アンケート調査 (満足度)</li> </ul>
④需要妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定員数と需要のバランスが適切かどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日別・便別利用状況 (乗船率)</li> </ul>

## ①安定性

### 就航率は平均97%で安定

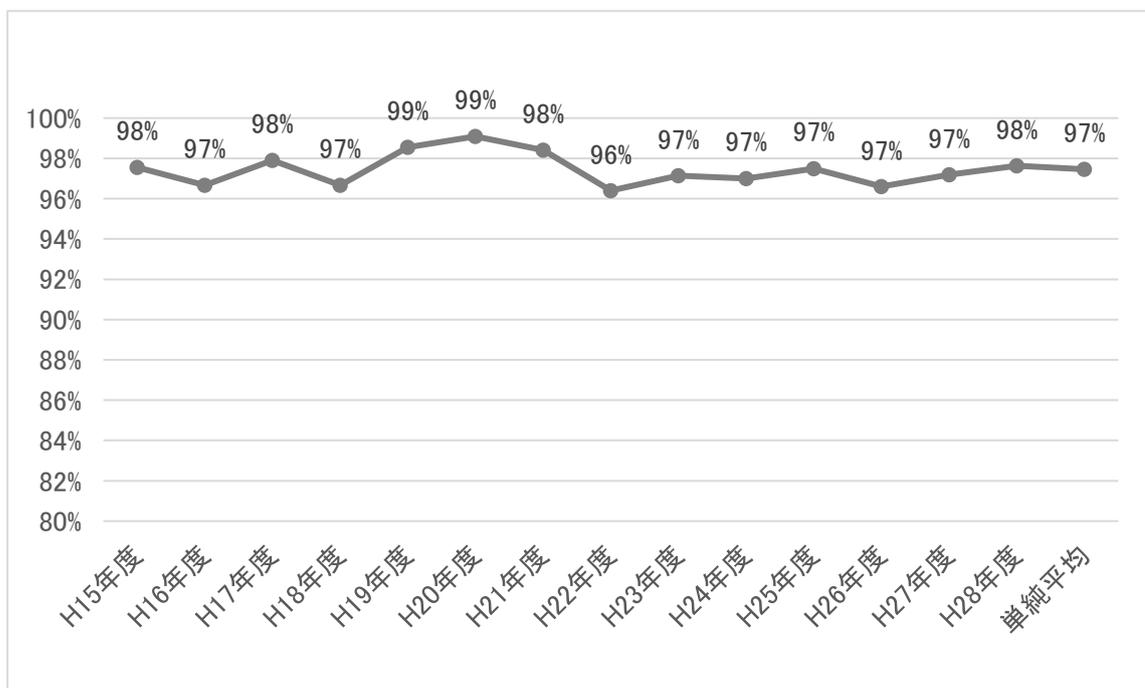
#### ア) 就航率

- ・ 就航率は95%以上の高い水準にあり、平成15年度から平成28年度の単純平均は97%である。

#### イ) 備船先

- ・ ドック時や船舶の突発的な故障時等には、適切な船舶を確保することとしている。

図表 年間平均就航率



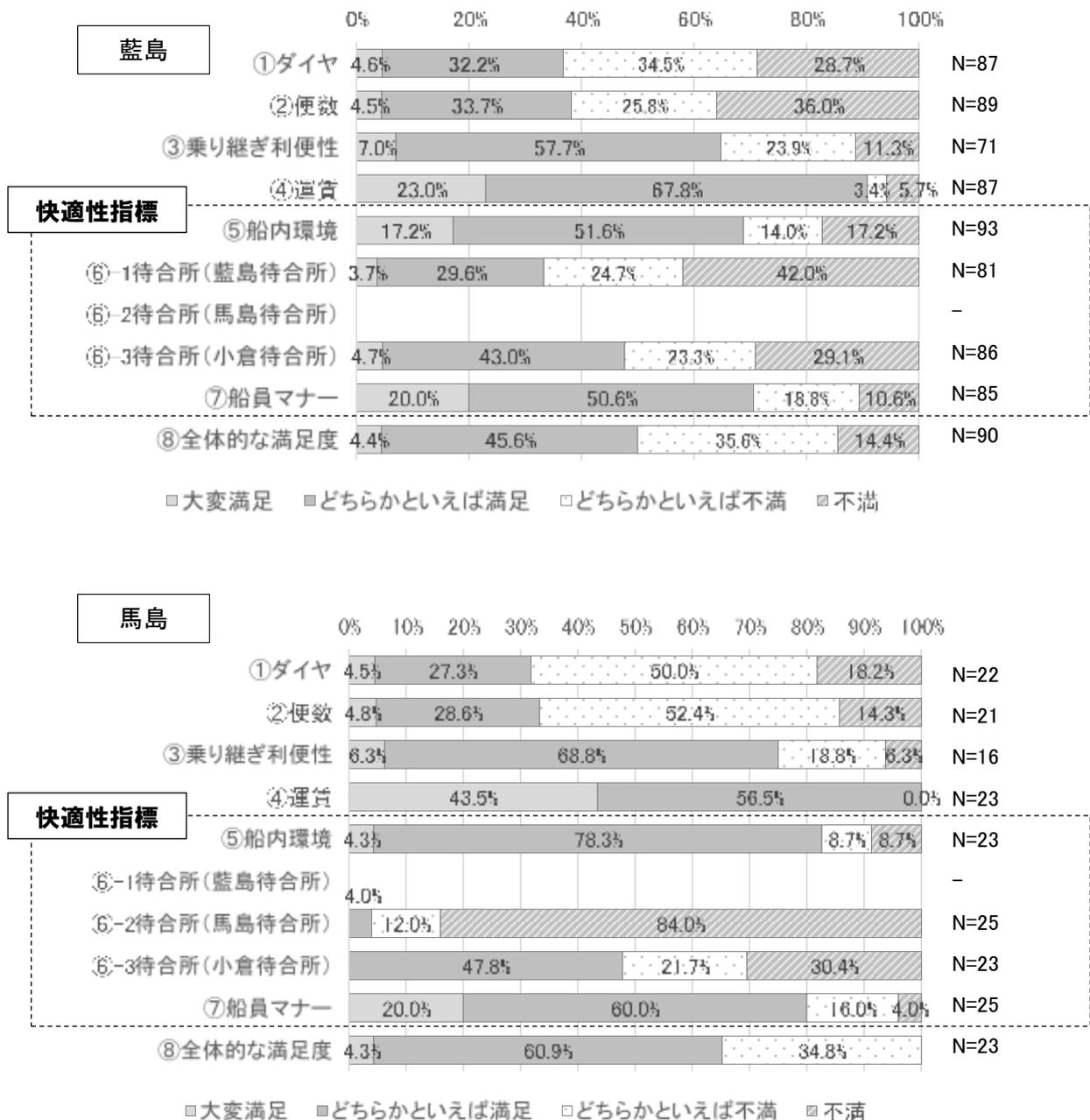
運航実績(就航率=運航回数/計画回数)

## ②快適性

### 待合所の衛生面の改善の要望が多い。

- ・ 今回実施したアンケート調査では、待合所の評価が全体的に低く、藍島・馬島の両待合所や小倉待合所の衛生面の改善等を求める意見が多い。
- ・ 一方、船内環境については、新船就航直後ということもあり全体として満足度は高いが、個別の意見としてはエンジン・スラスター音に関する意見、座席の座り心地や清掃面の充実を求める意見もみられた。
- ・ また、船員マナーについても全体的には満足度が高いが、個別意見として挨拶等の更なる徹底を求める意見がみられた。

図表 快適性に関する島民アンケート調査結果（※詳細結果は後述）



### ③利便性

**平日・土日祝ダイヤの統一や小倉発 1 便の早発、  
島発・小倉発 2 便の調整などダイヤ見直しの要望が多い。**

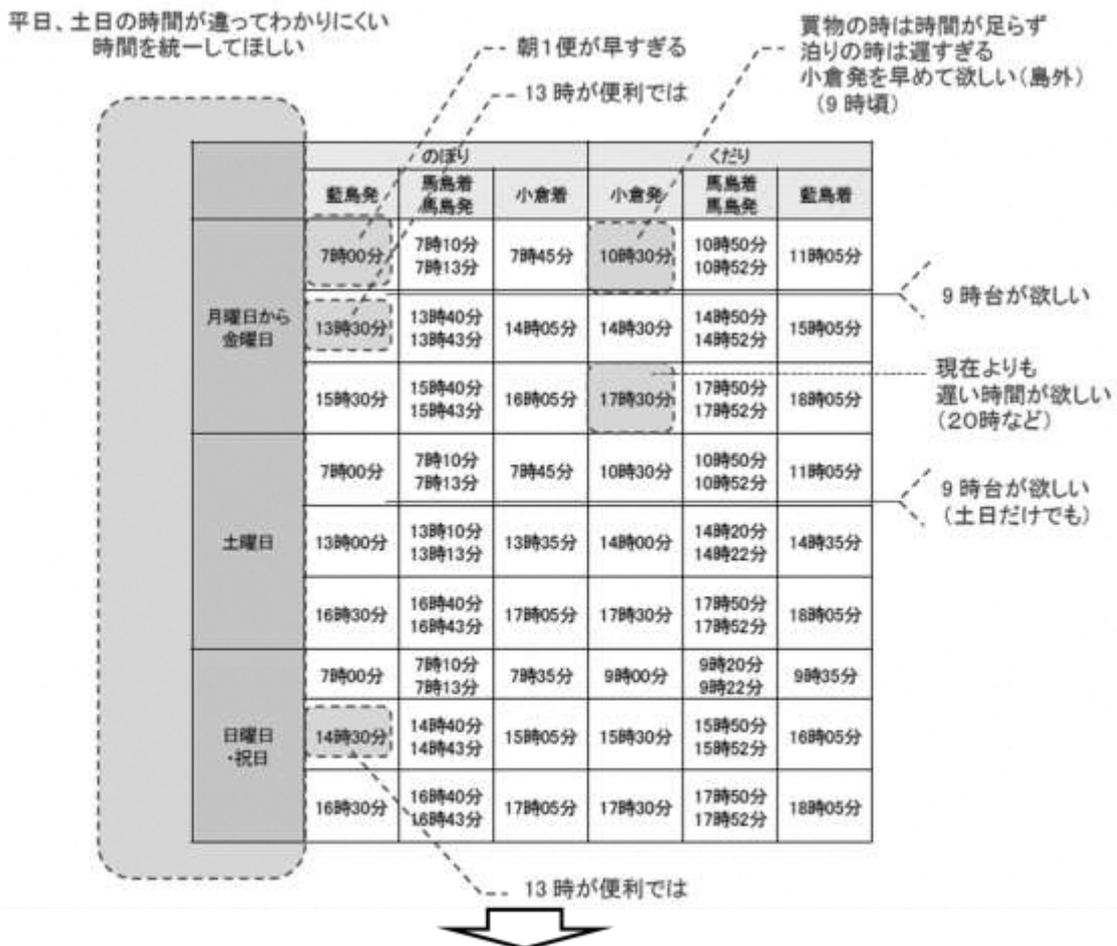
ア) 乗り継ぎについて

- ・ 小倉港栈橋は在来線、新幹線、モノレール、路線バスの総合ターミナルである小倉駅から約 650m で徒歩 8 分程度と隣接しており二次交通への乗り継ぎ利便性は極めて高い。
- ・ アンケート調査でも島民満足度は高く、自由意見でも乗り継ぎ改善に関する意見は見られない。

イ) ダイヤについて

- ・ 現在、平日、土曜、日曜・祝日と別れているダイヤの統一に対する意見が多い。
- ・ 具体的なダイヤについては、小倉発の 1 便、3 便に対する見直し要望が多い。また、午前中に 1 便増やして欲しいとの要望も多い。

図表 アンケート結果におけるダイヤに関する意見



《改善イメージ》 ※短期的に調整可能なダイヤ見直しイメージ(案)

- ・ 曜日ダイヤの廃止・ダイヤの統一
- ・ 小倉発 1 便や 3 便のダイヤ見直し
- ・ 2 便ダイヤの見直し
- ・ ゴールデンウィーク等の臨時便運航

#### ④需要妥当性

### 平均乗船率は22%

- ・ 平成 28 年度の平均乗船率は 22%である。
- ・ 便別での平均乗船者数・乗船率は、小倉行きで 31～36 人、乗船率 20～24%である。
- ・ 藍島行きでは 1 便が 49 人、乗船率 33%と集中する傾向が強く、2 便及び 3 便では 21～25 人、乗船率 10%台と少ない。

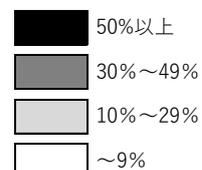
図表 平成 28 年度 年間平均乗船数・乗船率

	1 便	2 便	3 便
小倉行(藍島乗船時)	31 人(20%)	36 人(24%)	32 人(21%)
藍島行(小倉乗船時)	49 人(33%)	21 人(14%)	25 人(16%)
全体	32 人(22%)		

(乗船率は定員 150 人で算定)

図表 平成 28 年度 月別平均乗船率

	1便		臨時便		2便		3便	
	小倉行	藍島行	小倉行	藍島行	小倉行	藍島行	小倉行	藍島行
4月	18.1%	33.4%			22.8%	13.0%	21.1%	14.8%
5月	19.9%	40.9%			30.2%	12.5%	23.0%	14.9%
6月	21.4%	31.7%			21.3%	14.2%	22.4%	16.3%
7月	20.5%	36.8%	14.5%	41.8%	28.2%	15.4%	23.8%	16.9%
8月	21.4%	40.3%	35.3%	79.1%	31.9%	16.4%	29.6%	19.0%
9月	20.8%	30.3%			24.3%	13.3%	18.4%	17.3%
10月	24.4%	33.8%			21.6%	14.6%	22.2%	17.6%
11月	22.5%	32.1%			21.4%	15.8%	20.8%	16.7%
12月	20.3%	27.1%			19.9%	14.3%	18.3%	16.1%
1月	20.3%	21.9%			18.7%	14.4%	10.3%	13.2%
2月	18.0%	26.0%			19.4%	10.9%	17.5%	15.9%
3月	15.0%	31.0%			24.5%	10.4%	20.8%	14.3%
平均	20.4%	32.8%	24.9%	60.5%	24.2%	14.0%	21.1%	16.3%



図表 平成 28 年度 1 日平均乗船率 40%以上

			1便				夏季増便				2便				3便				合計	乗船率
			7:00 小倉行		10:30 藍島行		小倉行		藍島行		13:30 小倉行		14:30 藍島行		15:30 小倉行		17:30 藍島行			
			藍島	馬島	馬島	藍島	藍島	馬島	馬島	藍島	藍島	馬島	馬島	藍島	藍島	馬島	馬島	藍島		
5月	1	日	27	0	6	126					94	7	8	21	62	19	0	19	387	43%
5月	4	水	22	5	12	134					134	12	0	21	26	0	5	24	394	44%
5月	5	木	23	1	20	132					108	23	16	47	71	8	1	41	487	54%
5月	7	土	33	3	7	120					76	2	6	35	62	10	2	21	376	42%
5月	14	土	58	13	9	96					76	4	8	44	66	11	9	42	435	48%
5月	21	土	41	4	12	116					65	7	2	50	106	10	5	35	451	50%
5月	22	日	27	1	15	123					48	10	0	23	84	7	3	17	357	40%
6月	11	土	61	14	12	72					47	3	9	39	69	14	8	37	384	43%
6月	18	土	33	10	17	106					46	7	6	39	91	21	9	25	408	45%
7月	16	土	30	4	16	75					66	12	2	54	60	9	4	32	364	40%
7月	18	月	21	1	33	116					81	26	15	25	57	29	5	20	426	47%
7月	31	日	35	0	11	71	27	1	14	110	46	14	4	23	94	23	0	22	494	41%
8月	6	土	34	11	4	70	31	12	10	88	104	10	12	18	39	3	2	33	477	40%
8月	13	土	28	5	17	101					77	7	8	74	43	1	6	45	410	46%
8月	14	日	13	2	15	74	90	5	31	110	53	4	8	54	86	43	5	54	645	54%
8月	15	月	30	11	10	33	40	4	20	134	54	8	8	51	93	39	4	51	585	49%
8月	16	火	90	12	3	33					95	12	1	19	87	6	9	28	394	44%
9月	24	土	42	4	14	82					52	19	6	35	56	8	6	54	377	42%
10月	10	月	22	1	10	124					71	12	13	24	62	1	4	37	379	42%
11月	5	土	33	2	6	70					55	2	8	92	98	12	0	33	411	46%
11月	12	土	49	15	8	86					51	6	9	38	82	13	15	26	396	44%

# 第3章 経営診断

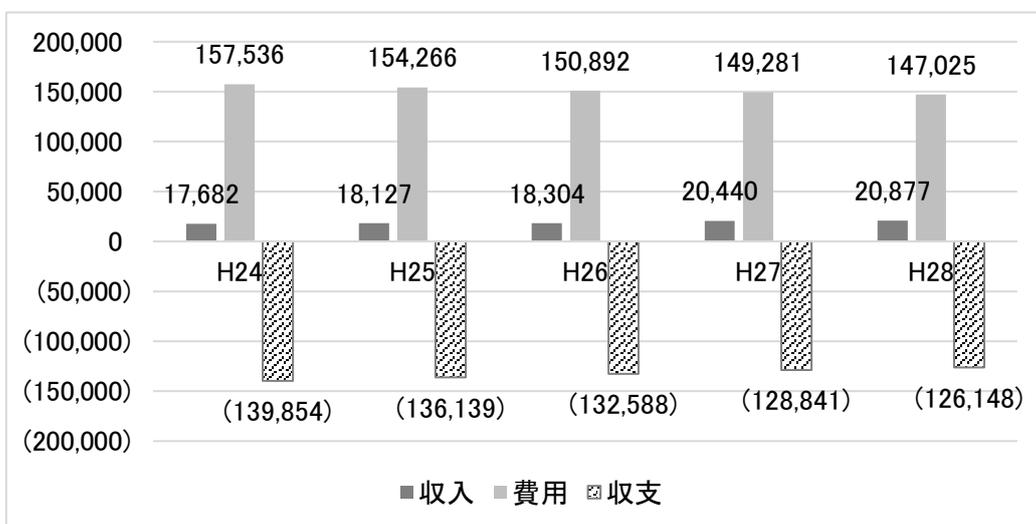
## (1) 航路経営の概況

### ① 収支状況

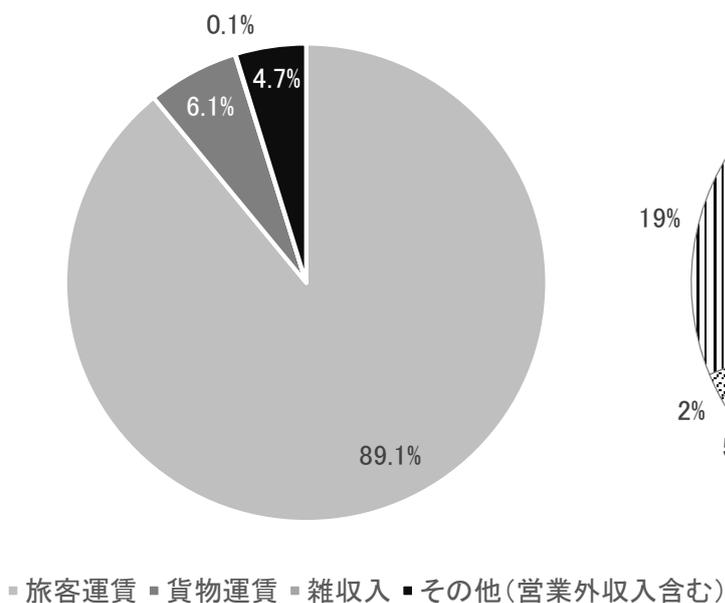
毎年 1.3 億円前後の赤字経営。収入の 89%は旅客運賃収入

- ・ 本航路は経営赤字が続いており、毎年の欠損額は 1 億 3 千万円前後で推移している。
- ・ 近年の収益増加により、原価率、売上総利益率とも改善傾向にあるものの、予断を許さない状況が続いている。

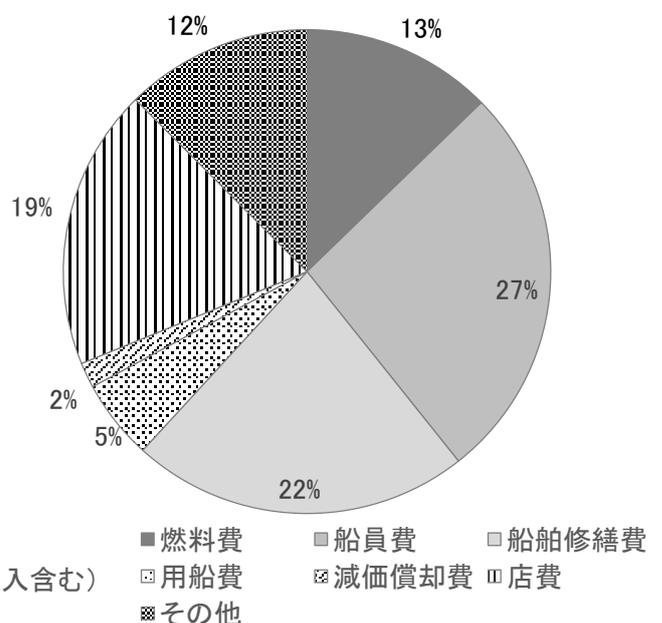
図表 収支推移 (千円)



図表 収入構成比 (平成 28 年度)



図表 費用構成比 (平成 28 年度)

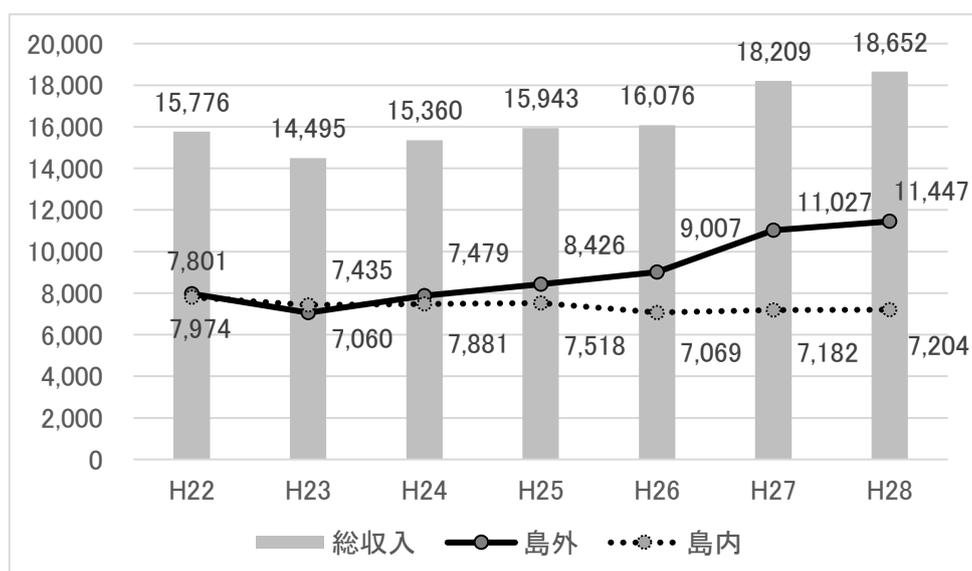


## ②運賃収入の特性

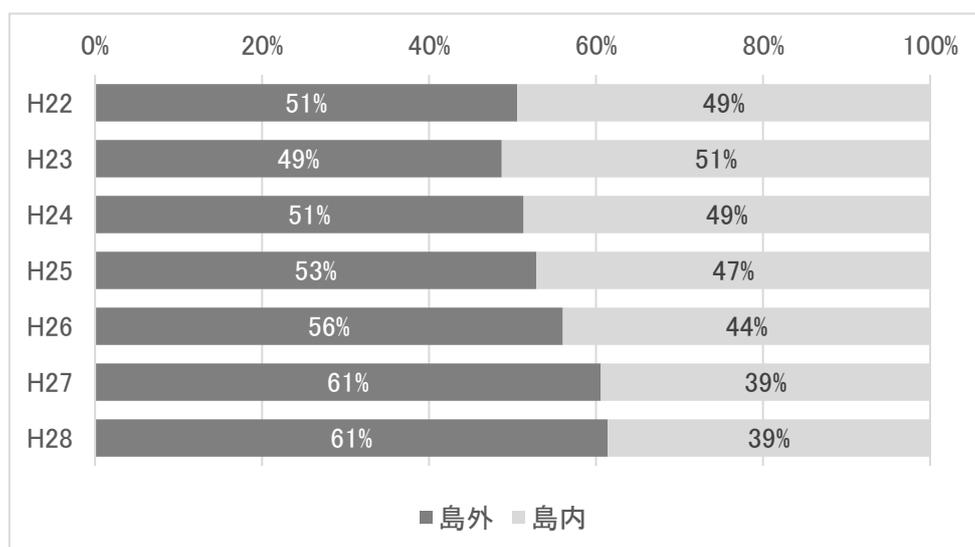
### 島外利用者の増加を背景に運賃収入は増加傾向。島外利用者の収入比率は6割

- ・ 運賃収入は島民利用分が減少傾向にある一方、島外利用者の増加を背景に全体として増加傾向にあり、平成28年度では18,652千円であった。
- ・ 運賃収入比率は島外比率が上昇傾向にあり平成28年度で61%となった。実数ベースでは島民利用者の方が島外利用者よりも多いが、島民利用者の53%は島民運賃が半額となる65歳以上の高齢者であることが、収入が抑えられている一つの要因であるといえる。

図表 運賃収入推移（島内・島外別）（単位：千円）



図表 島内・島外別運賃収入割合

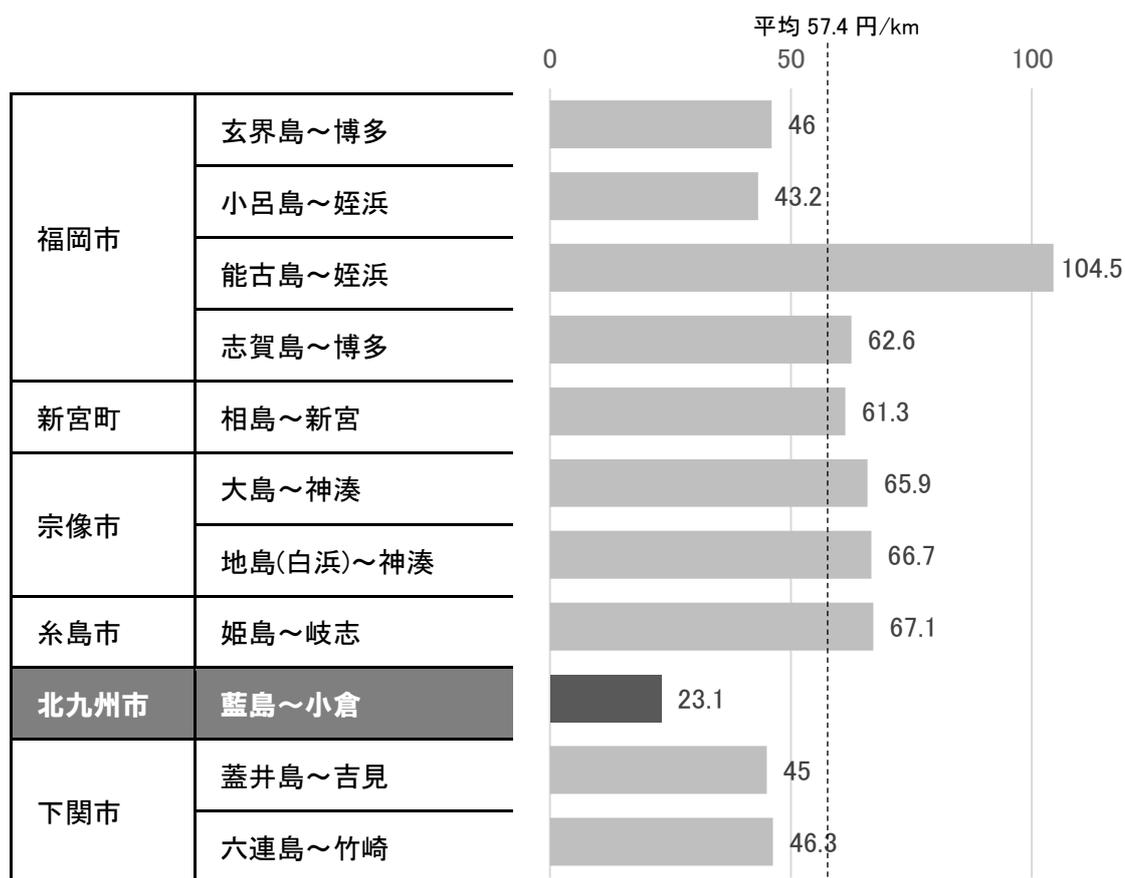


### ③運賃水準の他航路比較

**本航路のキロ当たり単価は近隣他航路(福岡県内、下関市)平均の約4割と低い**

- 本航路のキロ当たり単価は近隣他航路（福岡県内、下関市）平均の4割と低い。

図表 福岡県内及び下関市航路キロ当たり運賃比較（単位：円）



## (2) 航路損益計算書の分析

### ① 収入の状況

収入は近年の利用者の増加から4期連続で増加しており、平成28年度は5年前に比べ18%増の20,877千円となっている。運航収入が収入全体の95%程度を占めており、本業以外での稼ぐ力は少ないといえる。

### ② 費用の状況

総費用は平成24年度から4期連続で減少している。これは船員費や修繕費などの運航費用は横ばいにあるが、燃料費や傭船料、岸壁使用料の減少から全体として費用削減が進んだ結果である。

なお、平成29年度からは新船建造により減価償却費が増加するほか、燃料が重油から単価が高い軽油に変更することにより燃料費の増加が予想される。一方、費用全体の20%前後を占める船舶修繕費は、新船導入により一定期間は減少することが予想される。

### ③ 航路損益の状況と将来見通し

航路損益は、平成28年度で▲126,148千円であるが、収入増加と費用削減より全体的に改善傾向にある。収支率は平成28年度で14%と改善傾向にあるが、類似航路に比べ大幅に低い。これは運賃水準の低さが要因の一つといえる。

将来の見通しについては、人口減少などを背景に利用者数は減少に転じ、収入が減少する可能性がある。こうした中、新船の減価償却や主機燃料が重油から軽油へ変更することによる燃料費増加等が生じる反面、その他の固定費の大幅な削減は難しいことから、利用者数次第では、今後収支は悪化する可能性がある。



#### **収支悪化を回避するためには、以下の検討が必要である。**

- 島民の利用頻度増加に向けた検討
- 島外利用者の増加に向けた検討
- 運賃値上げの検討
- 営業外収入の増加に向けた検討
- 経常費用削減に向けた検討
- 国・県・市が一体となった運航体制の検討

図表 経営指標 総括表（単位：千円）

			H24	H25	H26	H27	H28
収益(運航収益+営業収益)		①	17,682	18,127	18,304	20,440	20,877
(うち旅客収入率)			86.9%	88.0%	87.8%	89.1%	89.3%
費用	運航費用	②	102,957	102,472	98,456	107,028	99,818
	営業費用	③	54,579	51,794	52,436	42,253	47,207
	費用計	④(②+③)	157,536	154,266	150,892	149,281	147,025
差引当期営業利益(損失)		⑤	-139,854	-136,139	-132,588	-128,841	-126,148
当期純利益(損失)		⑥	-139,854	-136,139	-132,588	-128,841	-126,148
損益CF(当期純利益+償却費)		⑦	-137,336	-133,621	-130,070	-126,323	-123,630

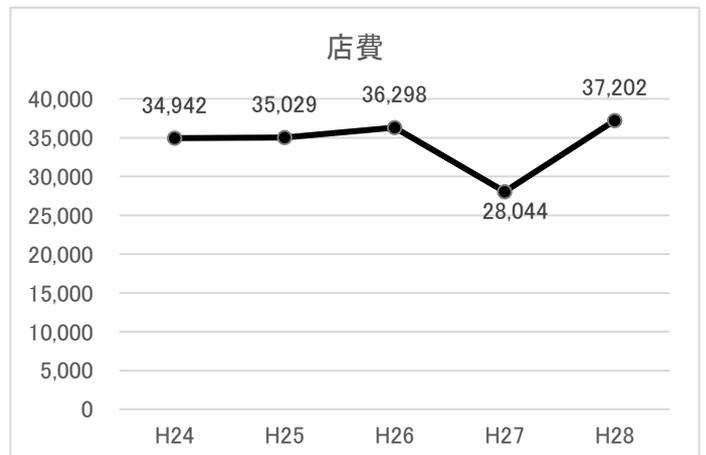
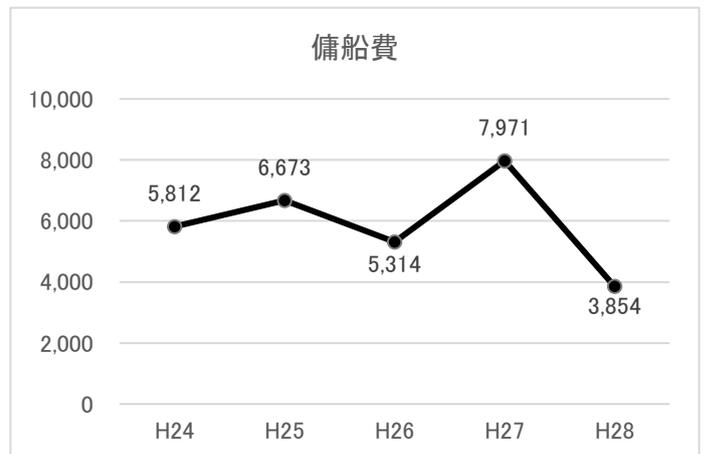
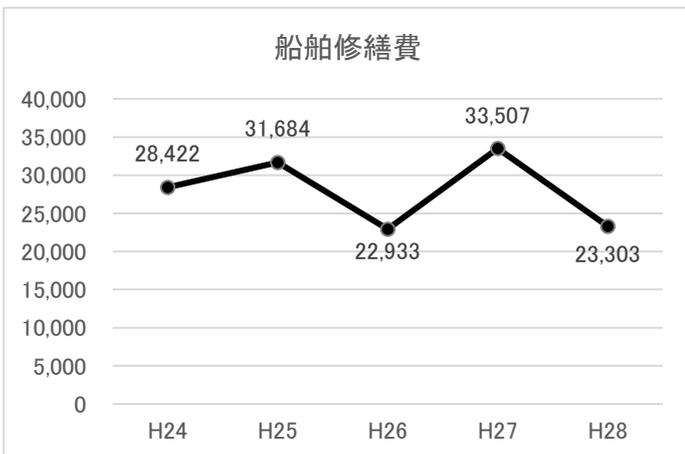
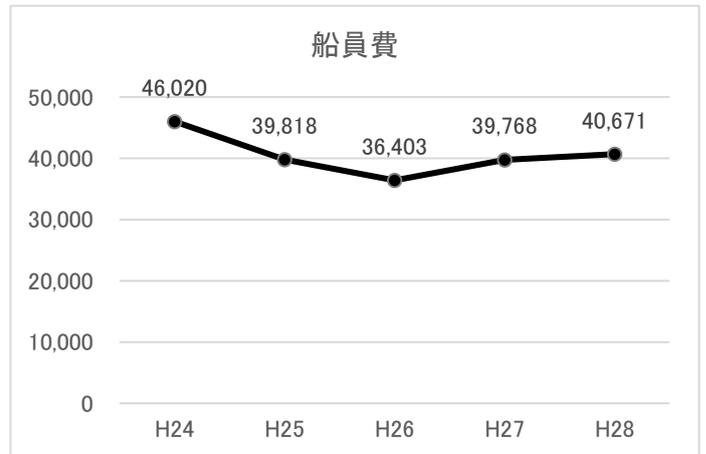
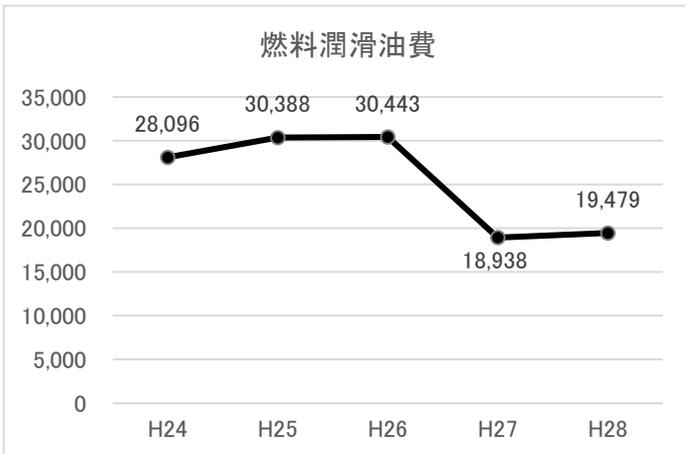
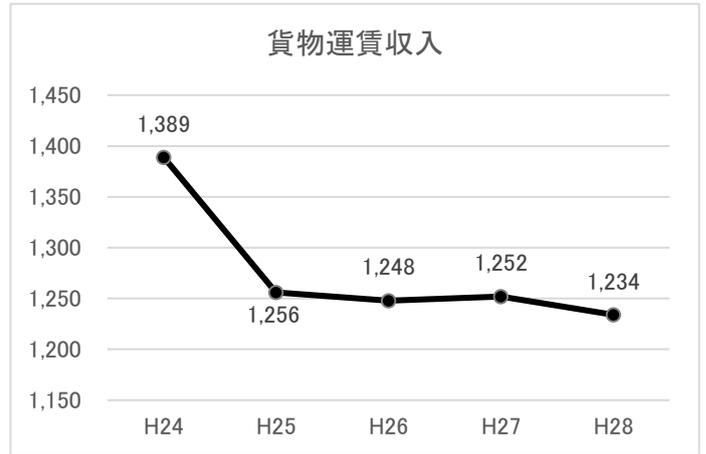
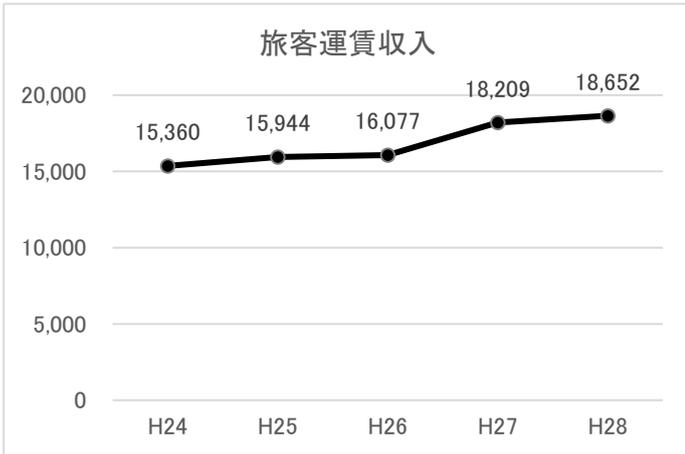
			H24	H25	H26	H27	H28
収益性	収支率	①/④	11%	12%	12%	14%	14%
	原価率(運航費用)	②/①	582%	565%	538%	524%	478%
	売上高総利益率	(①-②)/①	-482%	-465%	-438%	-424%	-378%
	営業費率(営業費用)	③/①	309%	286%	286%	207%	226%
成長性	売上高前年比増減率		100%	103%	101%	112%	102%

資料) 損益計算書を基に作成

図表 損益計算書（単位：千円）

		H24	H25	H26	H27	H28	構成比※	
総利用者数(人)		66,650	65,913	66,969	72,258	70,957		
（島民）（人）		40,782	38,973	38,325	37,872	36,329		
（島外）（人）		25,868	26,940	28,644	34,386	34,628		
1 収益	運航収益	1. 旅客運賃	15,360	15,944	16,077	18,209	18,652	89%
		2. 貨物運賃	1,389	1,256	1,248	1,252	1,234	6%
		3. 雑収入	14	15	12	12	9	0%
		小計	16,763	17,215	17,337	19,473	19,895	95%
	営業収益	1. 雑収入	919	912	967	967	982	5%
		小計	919	912	967	967	982	5%
収益計		17,682	18,127	18,304	20,440	20,877	100%	
2 費用	運航費用	1. 燃料潤滑油費	28,096	30,388	30,443	18,938	19,479	13%
		2. 港費				3,330	3,355	2%
		3. 船費	74,861	72,084	68,013	84,760	76,984	52%
		1) 船員費	46,020	39,818	36,403	39,768	40,671	28%
		2) 船舶備品費	163	327	1,167	1,068	2,318	2%
		3) 船舶消耗品費						
		4) 船舶修繕費	28,422	31,684	22,933	33,507	23,303	16%
	5) 雑費	256	255	7,510	10,417	10,692	7%	
	小計	102,957	102,472	98,456	107,028	99,818	68%	
	営業費用	1. 保険料	493	498	503	508	513	0%
		2. 利子	600	308	134	21	25	0%
			航路附属施設	600	308	134	21	25
		3. 減価償却費	2,518	2,518	2,518	2,518	2,518	2%
			船舶	2,518	2,518	2,518	2,518	2,518
		4. 賃借（用船）料	5,812	6,673	5,314	7,971	3,854	3%
			船舶	5,812	6,673	5,314	7,971	3,854
		5. 航路附属施設費	10,214	6,768	7,669	3,191	3,095	2%
		6. 店費	34,942	35,029	36,298	28,044	37,202	25%
		小計	54,579	51,794	52,436	42,253	47,207	32%
	費用計	157,536	154,266	150,892	149,281	147,025	100%	
	差引当期純利益（純損失）		-139,854	-136,139	-132,588	-128,841	-126,148	-
	（収支率）収入/費用		11.2%	11.8%	12.1%	13.7%	14.2%	

図表 平成28年度 主な費目の推移（単位：千円）



参考：平成 28 年度売上枚数

往復券が枚数ベースで 80.5%、金額ベースで 85%を占め、回数券や定期券は金額ベースで 7%程度である。往復券の割合が多いことは高頻度利用者が少ないことを示している。単発利用や外部の依存度が高く、島民の人口減少や少子高齢化による急速な減少はしにくい構造といえる。

図表 平成 28 年度売上枚数（単位：枚）※回数券、定期券、団体を含まない

			小倉分室	船内販売機	合計		
片道	小倉～藍島	大人	489	734	1,223	1,823	5.9%
		小人	49	88	137		
		年長者		56	56		
	小倉～馬島	大人	84	110	194		
		小人	6	18	24		
		年長者		12	12		
	藍島～馬島	大人	84	84	168		
		小人	6	1	7		
		年長者		2	2		
往復	小倉～藍島	大人	11,037	5,741	16,778	24,940	80.5%
		小人	722	875	1,597		
		年長者		3,289	3,289		
	小倉～馬島	大人	1,310	850	2,160		
		小人	146	33	179		
		年長者		828	828		
	藍島～馬島	大人	84	15	99		
		小人	6	4	10		
		年長者		0	0		
年長者特別	小倉～藍島	片道	103		103	4,231	13.6%
		往復	3,387		3,387		
	小倉～馬島	片道	29		29		
		往復	712		712		
小児身障	小倉～藍島	片道	0		0	5	0.0%
		往復	5		5		
	小倉～馬島	片道	0		0		
		往復	0		0		
回数券	小倉～藍島		161		161	161	-
	小倉～馬島		0		0		
定期券 (1枚=1月)	小倉～藍島	通勤	81		81	98	-
		通学	17		17		
	小倉～馬島	通勤	0		0		
		通学	0		0		
合計			18,259	12,740	30,999		

資料)平成 28 年度実績を基に作成。最右列の構成比は販売枚数合計(30,999 枚)に対する割合

図表 平成 28 年度売上金額（単位：円）

			小倉分室	船内販売機	合計		
片道	小倉～藍島	大人	195,600	293,600	489,200	597,420	3.2%
		小人	9,800	17,600	27,400		
		年長者		11,200	11,200		
	小倉～馬島	大人	23,520	30,800	54,320		
		小人	840	2,520	3,360		
		年長者		1,680	1,680		
	藍島～馬島	大人		10,080	10,080		
		小人		60	60		
		年長者		120	120		
往復	小倉～藍島	大人	8,829,600	3,214,960	12,044,560	14,788,870	79.3%
		小人	288,800	245,000	533,800		
		年長者		920,920	920,920		
	小倉～馬島	大人	733,600	340,000	1,073,600		
		小人	40,880	6,600	47,480		
		年長者		165,600	165,600		
	藍島～馬島	大人		2,550	2,550		
		小人		360	360		
		年長者		0	0		
年長者特別	小倉～藍島	片道	20,600		20,600	1,578,820	8.5%
		往復	1,354,800		1,354,800		
	小倉～馬島	片道	4,060		4,060		
		往復	199,360		199,360		
小児身障	小倉～藍島	片道			0	1,000	0.0%
		往復	1,000		1,000		
	小倉～馬島	片道			0		
		往復			0		
回数券	小倉～藍島		644,000		644,000	644,000	3.5%
	小倉～馬島				0		
定期券 (1枚=1月)	小倉～藍島	通勤	583,200		583,200	640,320	3.4%
		通学	57,120		57,120		
	小倉～馬島	通勤			0		
		通学			0		
団体			396,060		396,060	2.1%	
合計			13,382,840	5,263,650	18,646,490		

資料)平成 28 年度実績を基に作成  
最右列の構成比は売上金額合計(18,646,490 円)に対する割合

### (3) 収支シミュレーション

本項では将来の収支シミュレーションを、次の前提条件を基に行った。

シミュレーションの結果、今後、利用者の減少による収入減少と新船の減価償却を含む費用増加により収支は平成 42 年度で▲1.7 億円程度まで悪化する可能性がある。

#### <主な前提条件>

- ・ 収入は将来利用者数に運賃を乗じ算定する。
- ・ 将来利用者数は「島民」と「島外」に分けて以下のとおり推計した。
- ・ 島民は平成 22 年と平成 27 年の変化率から算定した将来人口（藍島・馬島合計）に、平成 24 年から平成 28 年までの島民 1 人当たり年間平均回数（124 回/年）を乗じて算定した。
- ・ 島外は平成 29 年 4 月～9 月の対前年比より島外利用者増減率を算定（△2.92%）し将来も同様の傾向が続くと仮定した。
- ・ 燃料費は新船導入による増加を加味し、H29 度は H28 度の 1.25 倍、H30 度は H28 度の 1.5 倍と仮定した。
- ・ 船員費は物価上昇を加味し年 0.5%増とした。
- ・ 船舶修繕費は H24～H28 平均値を基準にリプレイス後は 10%減と仮定した。なお、H29 は半期のため 5%減と仮定とした。
- ・ 新船の減価償却費は H30 度より船価 3.72 億円を国基準にあわせ 14 年で償却すると仮定した。

図表 収支シミュレーション結果（単位：千円）

	実績	推計			
	H28	H32	H37	H42	H47
藍島・馬島人口(人)	286	280	250	220	190
輸送人員(人)	70,957	65,454	57,516	50,162	43,311
島外合計	34,628	30,754	26,516	22,862	19,711
島内合計	36,329	34,700	31,000	27,300	23,600

#### 《収支シミュレーション》

収入(千円)	20,877	18,305	16,153	14,186	12,377
費用(千円)	147,025	183,236	184,284	185,358	162,363
収支(千円)	-126,148	-164,931	-168,131	-171,172	-149,986
備考		新船償却期間 (H30～H43年度の14年間)			